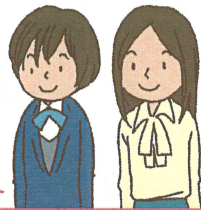


高校2年生以上の女の子 成人女性の方へ

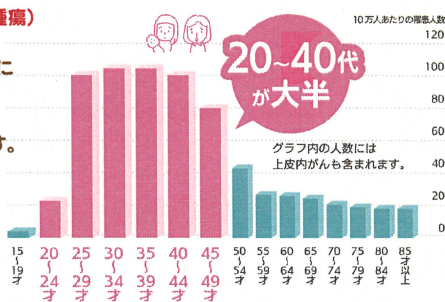


1997~2007年度
生まれの女性は
2024年度まで
無料

1996年度
生まれ以前は
自費で
5~10万円

子宮頸がんと HPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部にがん(悪性腫瘍)の発症に関係する型(=ハイリスクHPV)があります。このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から数十年かけて子宮頸がんを発症してしまふことがあります。また、尖圭コンジローマという性感染症の原因にもなります。



子宮頸がんで亡くなる人数
8人/日

治療のため多くの女性が
子宮摘出

17歳以上の女性へのHPVワクチンの効果と有効性

HPVワクチンは HPVの感染を予防するワクチンで、既に感染したウイルスを排除する効果はありません。しかし、性交渉をすると必ず感染するわけではないので、初交後のHPVワクチン接種も十分に効果があります。実際に、17歳以上で4価のHPVワクチン(4種類のHPVを予防)を接種することで、将来の子宮頸がんの約53%を防ぐことがわかっています。9価のHPVワクチン(9種類のHPVを予防)であれば、更に効果が高いと考えられています。26歳以上27~45歳女性



HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。数多くの研究で、「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

1997~2007年度生まれの女性は、**無料接種** できます

1997~2007年度生まれの女性で、国が積極的におすすめをしていなかった時期に打ち逃した人は、2024年度まで特例で無料接種可能です。

合計3回の接種が必要ですが、1~2回接種したあとに中断した人も、残りの回数を無料で接種できます。

なお、2023年4月から、9価ワクチンもキャッチアップ接種の対象に含まれました。補助を受けるための手順は、住民票がある自治体に問い合わせてください。すでに接種推奨年齢を過ぎていますが、なるべく早めの接種がおすすめです。

1996年以前に生まれた女性も、自費での接種が可能です。合計5~10万円かかりますが、医療機関やワクチンの種類によって異なりますので、事前に産婦人科や内科へ取り扱うワクチンの種類や費用をお問い合わせください。



国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省は HPV ワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していましたが(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPV ワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関 [WHO])、米疾病予防管理センター [CDC] など)も HPV ワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。

がんを予防できる ワクチン 知ってますか?

全その人に
関係がある

日本だけ・子宮頸がんだけで毎年3,000人、
その他の関連する病気も含めると、男女問わず
年間数千人もの命を奪っているHPV(ヒトパピローマウイルス)。
ご自身やお子さんの年齢・性別に合うページを見つけて、
HPV感染を予防するワクチンについて、一緒に理解を深めましょう。

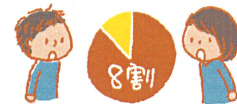


高校2年生以上の
女の子と
成人女性の方へ **4**
ページへ

高校1年生以下の
女の子とその保護者の方へ **2**
ページへ

男の子とその保護者
成人男性の方へ **3**
ページへ

HPVはとでもありふれたウイルス
で8割以上の男女が一生のうち
一度は感染しています。



子宮頸がんのうち95%以上は
HPVの感染によるものです



男性に多い中咽頭がんや肛門がん
もHPVの感染が原因の一つです



1997~2007年度生まれの女性は
2024年度まで
無料で接種できます



日本では小学校6年生から
高校1年生までの女の子は
2価・4価・9価のHPVワクチンを
無料で接種できます



安全性が確認されたため
2021年11月に
積極的接種勧奨が再開しました



みんなパピ! みんなで知ろう HPV

「みんなパピ! みんなで知ろう HPV プロジェクト」は HPVによって引き起こされる病気と予防方法についてわかりやすく解説します!

みんなパピ! 検索

この資料よりさらに詳しい情報を知りたい方はこちら!



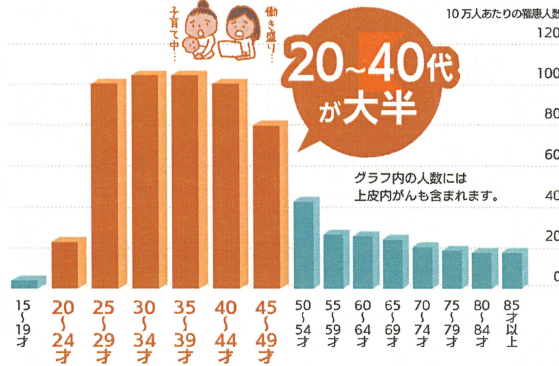
高校1年生以下の女の子とその保護者の方へ

高1の9月までに
初回を接種すると
全て無料で接種完了
できます



子宮頸がん と HPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部にがん(悪性腫瘍)の発症に関与する型(=ハイリスクHPV)があります。このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から数十年かけて子宮頸がんを発症してしまうことがあります。また、尖圭コンジローマという性感染症の原因にもなります。



子宮頸がんのできる人数
8人/日

治療のため多くの女性が
子宮摘出

女子へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。
17歳までに4種のHPVワクチン(4種類のHPVを防ぐ)を3回接種することで、将来の子宮頸がんの約88%を予防できます。



HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。数多くの研究で、「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。



HPVワクチンの公費助成と接種方法

HPVワクチンは国の定める定期予防接種で、「小学校6年生~高校1年生の女の子」は無料で接種できます。定期予防接種の予診票の受け取り方は、自治体により異なります。接種する際には、まずは自治体HPなどで確認し、指定の医療機関に予約を取って受診しましょう。なお、2・4種ワクチンに加えて、9種ワクチンも2023年4月から定期接種となりました。1・2回目を2・4種ワクチンで接種した方の3回目接種は、原則同じワクチンとなります。ただし、医師と相談したうえで9種を選ぶことは可能です。9種ワクチンを受ける方は、15歳の誕生日までに1回目の接種を済ませた場合、接種回数は2回になります。



※15歳未満では9種は2回接種



国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していました(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関(WHO))、米疾病予防管理センター(CDC)などもHPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。

男の子とその保護者と成人男性の方へ



自費
約5万円

男性に関するHPV(ヒトパピローマウイルス)が引き起こす病気

HPVという子宮頸がんなど女性の病気の原因というイメージがあるかも知れませんが、でも、実は中咽頭がんや陰茎がん、肛門がんなど男性に起こるがんの原因にもなるのです。これらに加えて、尖圭(せんけい)コンジローマという性器のイボもHPVの関連疾患です。



男性へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。日本では、肛門がんの約8~9割、中咽頭がんの約半分がHPV感染が原因だと言われており、それらはHPVワクチンで予防できると考えられています。また、尖圭コンジローマという性感染症も予防できます。そして、男性がHPVワクチンを接種することは、大切なパートナーを病気から守ることもつながります。

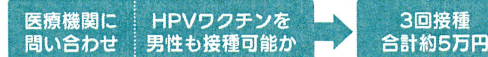


HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは、2019年までに世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。数多くの研究で、「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

HPVワクチンの接種方法

9歳以上の男性は4種のHPVワクチンが接種可能で、接種する場合には年齢に関わらず自費になります(2023年4月時点)。合計3回の接種が必要で、医療機関や種類によって異なりますが、合計約5万円ほどかかります。医療機関に問い合わせ、HPVワクチンを男性も接種可能か、事前にご確認ください。



国内外の公的機関の見解

世界中の100以上の国と地域で女性だけでなく男性にもHPVワクチンの適応があり、アメリカ、イギリス、オーストラリアなど約40の国と地域では男性のHPVワクチン接種にも公費助成をしています。実際にオーストラリアでは約9割、アメリカでは約6割の男性がHPVワクチンを接種しています。日本でも2020年12月にHPVワクチン(4種)の男性への接種が承認されました。

